

令和4年度

事業報告書

自 令和 4 年 4 月 1 日

至 令和 5 年 3 月 31 日

社会福祉法人 ザ・ハート・クラブ

《 目 次 》

基本理念		1
経営理念		1
サービス方針		1
組織図		2
法人沿革		3
法人概要		3
事業報告	法人本部	4
	特別養護老人ホーム スウィート・ハート・ホーム	11
	デイサービスセンター サムフォット	22
	居宅介護支援事業所 ポム	28
	小規模多機能型居宅介護事業所 サイト	32
	デイサービスセンター サイト	37
	ショートステイセンター サイト	44
	困りごと相談室	49

社会福祉法人 ザ・ハート・クラブ 基本理念

一隅を照らす

— 与えられた役割を担って、価値を認められしっかりと存在する —

社会福祉法人 ザ・ハート・クラブ 経営指針

利用者・家族に優しい施設を目指します

(すべてを含め、利用者、家族に優しい)

地域社会への貢献を目指します

(社会福祉法人に求められている一つに地域貢献があり、保育所や小中学校との連携)

施設の充実と発展をめざします

(施設とは、狭義では職員であり、職員の充実が施設の充実になる。職員間の連携を強化し技の向上等資質を高めていく)

平成17年1月4日 社会福祉法人 ザ・ハート・クラブ

理事長 武政 茂子

社会福祉法人 ザ・ハート・クラブ サービス方針

■ 特別養護老人ホーム スウィート・ハート・ホーム

Sweet service (スウィート サービス)

(良きサービスは残しつつ、一歩先のやさしいサービスを提供します)

Heart to heart (ハート トゥ ハート)

(すべてのことに心のこもったサービスを提供します)

Home away from home (ホーム アウェイ フロム ホーム)

(第二の我が家のような居心地のよいサービスを提供します)

■ デイサービスセンター サムフォット

Service And Management For Old Timers

(齢を重ねゆく方々に心のこもったサービスと手助けを)

■ 居宅介護支援事業所 ポム

Peace Of Mind

(心からの安心をあなたに)

■ 在宅介護支援事業所 サイト

Settle In This Area

(住み慣れた地域で暮らす)

平成26年3月16日 社会福祉法人 ザ・ハート・クラブ

理事長 武政 茂子

《 法 人 沿 革 》

平成 5 年 3 月 22 日	社会福祉法人 ザ・ハート・クラブ設立認可
3 月 25 日	社会福祉法人 ザ・ハート・クラブ設立登記
6 月 23 日	建物着工〔日本自転車振興会、高知県、高知市補助金〕 〔医療法人厚洋会寄付〕
平成 6 年 3 月 31 日	建物竣工
4 月 1 日	高知市在宅介護支援センターかもだ 事業開始 高知市ホームヘルパー 派遣事業開始 特別養護老人ホーム スウィート・ハート・ホーム 事業開始
6 月 1 日	ショートステイ 事業開始
7 月 1 日	デイサービスセンター サムフォット 事業開始
平成 8 年 4 月 1 日	『ホームヘルパーステーションかもだ』と名称変更
平成 9 年 4 月 1 日	デイサービスセンター サムフォットにてホリデイサービス開始
平成 11 年 7 月 31 日	高知市在宅介護支援センターかもだ 事業廃止
平成 12 年 3 月 31 日	高知市ホームヘルパー 派遣事業廃止
平成 12 年 4 月 1 日	介護保険施設として事業開始(3事業)
平成 18 年 4 月 1 日	介護予防サービス事業開始(介護予防通所介護、介護予防短期入所生活介護)
平成 24 年 3 月 1 日	特別養護老人ホーム スウィート・ハート・ホーム 増床 (特養30床・短期入所生活介護6床)
平成 24 年 6 月 1 日	居宅介護支援事業所 ポム 事業開始
平成 26 年 3 月 24 日	小規模多機能型居宅介護事業所 サイト 事業開始 デイサービスセンター サイト 事業開始 ショートステイセンター サイト 事業開始
平成 28 年 10 月 1 日	高知市介護予防・日常生活支援総合事業 事業開始(通所介護)

《 法 人 概 要 》

【 法 人 名 】	社会福祉法人 ザ・ハート・クラブ
【代表者役職氏名】	理事長 武政 茂子
【 理 事 数 】	6名
【 監 事 数 】	2名
【 評 議 員 数 】	7名
【事務所の所在地】	〒780-8061 高知県高知市朝倉甲64番地1
【 電 話 番 号 】	088-840-7100(代表)
【 F A X 番 号 】	088-840-7480
【事業の名称・種類】	特別養護老人ホーム スウィート・ハート・ホーム 介護老人福祉施設 短期入所生活介護 介護予防短期入所生活介護 デイサービスセンター サムフォット 通所介護 第1号通所事業 居宅介護支援事業所 ポム 居宅介護支援 小規模多機能型居宅介護事業所 サイト 小規模多機能型居宅介護 デイサービスセンター サイト 通所介護 第1号通所事業 ショートステイセンター サイト 基準該当短期入所生活介護 基準該当介護予防短期入所生活介護

1. 法人本部

重点目標

(1) 事業戦略会議の取り組みについて

事業戦略会議では、各事業所の抱える課題や改善点を明確にしたうえで、対策等についての意見を出し合い、課題解決に向けた取り組みを進めるための話し合いを重ねた。また、会議の中で稼働率や収入目標に対する進捗状況を確認し、稼働率向上に向けた話し合いを行った。新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催を中止した月（令和4年8月、11月、12月）があった。

(2) 各種委員会活動の取り組みについて

各種委員会活動については、新型コロナウイルスクラスター発生によって中止になるなど、予定通り開催できないことがあった。各委員会主催の内部研修についても、感染拡大を防止する観点から、計画通りに開催することができなかった。外部研修については、リモートによる研修が増加したことで研修に参加しやすくなり、参加回数が増えた。今後も創意工夫しながら委員会活動を活性化させていく。

(3) 腰痛予防対策推進委員会（ノーリフティングケア）の取り組みについて

職員の腰痛健康調査を2回実施した。その集計結果を分析し、技術教育、個別アセスメント、環境調整、健康管理のそれぞれの担当が、課題を把握したうえで優先順位等を検討し、改善できるように取り組んだ。これからも委員会活動の充実を図るなど、ノーリフティングケアの定着を目指した取り組みを継続していくこととする。

(4) 人材の確保・定着に向けた取り組みについて

当法人の求人への応募者数は令和3年度の54名に対して、令和4年度は41名となり減少した。応募者41名のうち実際に採用したのは19名で、採用率は46.3%であった。

退職者数は、令和3年度の18名に対して、令和4年度も18名で、減少には至っていない。退職理由で多かったのは、家庭の事情と人間関係によるものであった。

これらの結果を分析し、今後の採用活動や離職防止に向けた取り組みに活かしていきたい。

(5) 職員の負担軽減・業務の効率化に関する取り組みについて

ノーリフティングケアを実践することで職員の負担軽減につながっている。令和4年度は、新たなICT機器や介護ロボット等の導入はなかった。令和2年度に各事業所へ導入したタブレットについては、操作にも慣れ、業務の効率化は図れている。これからも施設の環境に適合するもので、職員や利用者の負担軽減につながるものがあれば導入していきたい。

(6) 教育体制の整備について

教育委員会内において、新入職員や異動職員等の現状についての報告を行い、共有することができた。在宅部門においては、新人職員育成計画を見直し、より実践的に活用できるようになった。職員の教育・育成のため、統一基本ケア動画セミナーを1年間契約し、個々の知識向上・スキルアップにつなげられるようにした。外部研修に関しても、感染状況等をみながら可能な範囲で参加を促し、オンラインでの研修にも積極的に参加した。

介護福祉士国家試験に向けて、希望者には模擬試験を実施し、採点やアドバイス等を行った。令和4年度は、5名の職員が介護福祉士国家試験を受験し、5名全員が合格した。

(7) 異動の活性化について

本来、異動することでモチベーションの向上やスキルアップにつなげたいところだが、令和4年度に関しては、人員不足や働く環境等を理由とした異動となった傾向にある。しかし、異動したことによって前向きに働いている職員もいるため、異動に対して前向きに捉えてもらえるようにアプローチしていく。

(8) 感染症対策に関する取り組みについて

スウィート・ハート・ホームにおいて、新型コロナウイルスのクラスターが2度発生したが、前回(令和3年度)のクラスターの経験を活かした行動・対応ができたため、前回のクラスター時より利用者や職員の感染者数は少なく大きな混乱は生じなかった。クラスター発生時とは別に全国的に感染者が急増した時には、職員自身や職員の家族等が感染者となったため、休みを余儀なくされて事業所内の職員数が減り、勤務調整が困難となることがあった。

(9) 非常災害対策に関する取り組みについて

B C P (事業継続計画) 策定義務化を受けてB C P策定委員会を立ち上げ、災害時対応や感染症対応などの対策を協議した。また、様々な研修に参加し、災害時等における対応方法を学んだ。今後は、負傷者の発生なども想定した実践的な訓練を定期的実施していくとともに、備蓄品の管理や、必要な物資等についても随時検討していくこととする。職員への連絡方法については、法人用の公式ラインを導入し、全職員に対しての迅速な連絡手段を確立することができた。

【 理事会開催状況 】

開催年月日	出席者数 ／定数	議 題	理 事 (欠席者氏名)	監事出席有無 (出席者氏名)
令和4年5月27日	6／6	第1号議案 令和3年度 事業報告について 第2号議案 令和3年度 決算報告について (監査報告) 第3号議案 新評議員の推薦について 第4号議案 評議員選任・解任委員会の招集決定について 第5号議案 定時評議員会開催について 報告 執行状況について		渡辺 泰方 橋本 誠
令和4年10月13日	4／6	第1号議案 新規事業計画について	浜田 志津香 小島 千賀	渡辺 泰方 橋本 誠
令和4年11月22日	6／6	第1号議案 令和4年度 第1回補正予算について 第2号議案 評議員の招集決定について 報告 執行状況について		渡辺 泰方 橋本 誠
令和5年3月17日	5／6	第1号議案 令和5年度 事業計画書について 第2号議案 令和4年度 第2回補正予算書について 第3号議案 令和5年度 当初予算書について 第4号議案 就業規則等の変更について 第5号議案 評議員会の招集決定について	犬丸 佐保	渡辺 泰方 橋本 誠

【 評議員会開催状況 】

開催年月日	出席者数 ／定数	議 題	評 議 員 (欠席者氏名)	理事・監事出席有無 (出席者氏名)
令和4年6月17日	6／7	第1号議案 令和3年度 決算報告について (監査報告) 報告 1 令和3年度 事業報告について 報告 2 評議員候補者の推薦について	水田 質子	武政 茂子 犬丸 佐保 渡辺 泰方 橋本 誠
令和4年12月9日	4／7	第1号議案 令和4年度 第1回補正予算について	岡村 多津子 西山 由理 原田 春芽	武政 茂子 犬丸 佐保 渡辺 泰方 橋本 誠
令和5年3月27日	6／7	第1号議案 令和5年度 事業計画書について 第2号議案 令和4年度 第2回補正予算書について 第3号議案 令和5年度 当初予算書について 報告 就業規則の変更等について	水田 質子	武政 茂子 渡辺 泰方 橋本 誠

【職員研修】(施設内)

実施年月		研修会名	研修内容	参加職種
令和4年	4月	職員説明会	令和4年度の目標等	全職種
	7月	防災訓練	平日昼間想定訓練	全職種
	10月	全体研修会	褥瘡対策・マットレスについて	全職種
		ハラスメント対策研修	良い職場環境づくりのために	管理職
	11月	メンタルヘルス研修	ストレス発散のためのセルフケア	全職種
	12月	防災訓練	夜間想定訓練	全職種
令和5年	3月	全体研修会	不適切ケア防止に向けて	全職種
	3月	全体研修会	事故防止について、KYT訓練	全職種

合 計 8 回

【職員研修】(施設外)

実施月	開催場所	研修会名	研修内容	参加職種
5月	zoom	外国人材に関連するWEBセミナー	・「今だから見直そう！法人の採用マーケティング」 ・フジアカデミーバリ オンライン視察会	施設長
	zoom	令和4年度 高知県老人福祉施設協議会21世紀委員会 総会	・協議議題 ①令和3年度事業報告(案)について ②令和4年度事業計画(案)について ③その他 ・講演「BCP講話～BCPを機能させるために～」	総務主任 管理者
	オンライン	ケアテーマ別研修「介護技術」講義	・介護技術の目的と必要性、正しいケアの意味、身体の仕組み、不適切・適切なケアによる影響などケアの基本知識を座学を中心に学ぶ	介護職員
	オンライン	全国小規模多機能型居宅介護事業者連絡会 総会 & 事業所の集い		介護職員
6月	ふくし交流プラザ他	令和4年度高知県認知症介護実践研修「実践者研修」	・施設、在宅に関わらず、認知症の原因疾患や容態に応じ、本人やその家族の生活の質の向上を図る対応や技術を修得する	介護職員
	オンライン	認知症ケアと地域包括ケア研修会	・認知症に関する基礎知識 ・多機関協働について	介護支援専門員 生活相談員
	オンライン	ケアテーマ別研修「リスクマネジメント」	・リスクマネジメントの基本 ・予防するための能力の向上 ・事故後の適切な対応 等	介護職員
	オンライン	新任職員研修-ステップ1	・福祉サービスの基本理念を踏まえたうえで、福祉の仕事のやりがいや福祉の仕事に携わる基本姿勢、こころがまえについて学ぶ	介護職員
7月	オンライン	小規模多機能型居宅介護における基本的理解	・基本的な法令の理解 ・質疑応答	管理者 総務主任
	ふくし交流プラザ	高知県老人福祉施設協議会中央ブロック施設長会	①介護助手導入の取り組みについて ②災害時相互応援実施体制についての説明及び質疑応答	施設長
	ふくし交流プラザ	高知県災害派遣福祉チーム 令和4年度スキルアップ研修	・講義「災害派遣の実際と多職種連携による支援」 ・講義「災害派遣福祉チームの活動の実際」 ・メール送受信訓練 ・演習「高知県DWATの活動について事例から考える」	生活相談員 介護職員 介護支援専門員 看護師
	オンライン	令和4年度高知県福祉・介護新任職員フォローアップ研修(1回目)	・講義「コミュニケーションの基本 そのいち」 ・グループディスカッション	介護職員
	オンライン	ケアテーマ別研修「レクリエーション」	・レクリエーションの意義及び利用者への効果・具体的な技法・実施する際の留意点について学び、基本的な知識や技術を学ぶ	介護職員
	リモート	介護記録の書き方	・書き方のポイントや科学的介護によるIGT化にどう工夫していくか学ぶ	介護職員
	Eラーニング	令和4年度 介護施設における安全対策担当者養成研修	・制度説明と目的 ・介護事故の実態とリスクマネジメント/ヒヤリハット活用及び苦情窓口対応等の運用 ・介護事故の実態と対応(転倒、誤嚥事故) ・介護事故が発生した場合の対応や紛争予防策について ・身体拘束の適正化と虐待防止	介護支援専門員
8月	オンライン	ケアテーマ別研修「接遇」	・介護現場での接遇マナー・介護従事者としての心構え等、利用者の尊厳を守りながら、適切なケアが提供できるように、知っておかなければならないケアの基本知識や技術を習得する	介護職員
	オンライン	停電対策から始めるBCP策定WEBセミナー	・今後、義務化される福祉施設のBCP策定について ・非常用発電機を活用した停電対策 ・導入事例について ・利用可能な補助金制度	総務 管理者
令和4年 9月	オンライン 集合(ふくし交流プラザ)	令和4年度 高知県主任介護支援専門員研修	・介護保険サービスや他の保険・医療・福祉サービスを提供する者との連絡調整、他の介護支援専門員に対する助言・指導などケアマネジメントが適切かつ円滑に提供されるために必要な業務に関する知識及び技術を習得 ・地域包括ケアシステムの構築に向けた地域づくりを實踐できる主任介護支援専門員の養成	介護支援専門員
	高知県建設会館	養成講習「技能実習生責任者講習」		施設長
	オンライン	アンガーマネジメント研修	・介護現場において求められるアンガーマネジメントについて ～カチン・ムカッ・イライラを乗り越えて、良い介護を守るために～	施設長
10月	リモート	介護事業者支援セミナー	・基調講演「LIFEの活用方法」 ・事例発表	介護支援専門員 介護主任 総務
	朝倉総合市民会館	10月 地域ケア会議	・事例検討 ・地域の課題と資源	介護支援専門員
	zoom	高知市医師会 第1回地域医療カンファレンス	・コロナ対応の最前線	看護師
11月	高知会館	高知市と高知県老人福祉施設協議会(高知市内施設)との意見交換会	・今後の高齢者福祉施策を展開するために、介護現場からの忌憚のない意見や最近の情報を交換する	施設長
	zoom	高知県口のリハビリテーション研究会	・「食べられなくなったらどうしますか?～人工栄養で生きるということを考える～」	管理栄養士
	西部健康福祉センター	11月 地域ケア会議	・事例検討 ・地域の課題と資源	介護支援専門員
	四万十町役場(東庁舎)	事務職員研修会	・指導者向けの接遇マナー ・利用者・家族からのハラスメント対策 ・意見交換	総務
	ちばさんセンター	ノーリフティングセミナー	・スタンディングリフトの活用方法 ・ノーリフティングケア福祉用具最前線	理学療法士
	zoom	11月西部ブロック研修会	・何のための介護サービス?～認識の共有の大切さ～ 講義終了後個人ワーク、グループワークを実施	介護支援専門員
	zoom	高知市ケアマネジメント研修	・講義① 精神疾患の障害特性について ・講義② 高知市健康増進課の役割と多機関連携について	介護支援専門員

12月	高知城ホール	高知県災害派遣福祉チーム 令和4年度リーダー研修	・「活動記録・スクリーニング用紙について」 ・図上・シミュレーション訓練	生活相談員 介護職員	
	朝倉総合市民会館	12月 地域ケア会議	・事例検討 ・地域の課題と資源	介護支援専門員	
	オンライン	令和4年度高知県福祉・介護新任職員フォローアップ研修(2回目)	・講義「コミュニケーションの基本 そのに」 ・グループディスカッション	介護職員	
	オンライン	東北・四国ブロックカントリーミーティング	・ワークショップ ・見たことも聞いたこともない介護現場の「入浴」をガラリと変える方法	介護主任	
	オンライン	令和4年度自然災害BCP訓練講座	・基礎編 ・南海トラフ地震発生時の模擬訓練 ・準備、実施、振り返り ・訓練を実施する際の課題及び対応方法	管理者 総務	
	高知市西部健康福祉センター	12月西部ブロック研修会	防災講習 命をつなぐ自助・共助	介護支援専門員	
	オンライン	介護事業所のための管理職セミナー	・マドラー理論に学ぶ正しい育成方法の学び直し ・介護現場のハラスメント問題	管理者	
令和5年	1月	オンライン	メンバーシップリーダー研修	・福祉・介護現場に従事しチーム作りに関わる方を対象に、職員一人一人が能力を発揮できる「メンバーシップ型」チーム運営について紹介し、その考えや組織での展開に向けた基本知識を習得する	介護副主任 介護リーダー
		高知市あんしんセンター	新型コロナウイルス感染症の在宅医療支援に関する研修会	・第7波の振り返り感染症対策の基本 ・感染者数、死亡数等の分析結果 ・感染伝播の基本、ウイルスの特性について ・行政保健師による陽性者訪問に関する報告 ・防護服着脱訓練	介護支援専門員
		Web 公開期間	難病学習会	多系統萎縮症	介護支援専門員
		zoom	1月 西部ブロック研修会	ケアプラン点検を踏まえたケアプラン作成のポイント	介護支援専門員
	2月	オンデマンド配信	第1回全国老人福祉施設大会・研究会議	・シンポジウム「デジタル介護：ロボット・ICTと共存する次世代の高齢者福祉の魅力」 ・実践研究発表 ・先駆的特別報告 ・特別講演	全職員
		ふくし交流プラザ	令和5年度社会福祉施設総合保険制度説明会	・令和5年度社会福祉施設総合保険制度について	生活相談員
		zoom	2月 西部ブロック研修会	・ハラスメントの基礎知識と事業所の対策 ・ヘルパーさんのハラスメントの実態、ヘルパーとケアマネの連携について	介護支援専門員
		zoom	令和4年度中国・四国ブロック災害支援セミナー	・報告「災害福祉支援ネットワーク中央センターについて」 ・実践報告①「南海学園における防災・感染症対策について」 ・実践報告②「中長期的な視点での災害対応・BCMの推進」 ・講義「BCPの策定と実効性を高めるためのポイント～BCMの推進に向けて～」	総務
		zoom	南海トラフ地震に備えて今こそ企業に求められる「予防管理」「緊急管理」セミナー	・基調講演「長期防災戦略について～予防管理・緊急管理～」	施設長
		You Tube 公開	令和4年度 難病学習会	パーキンソン病	介護支援専門員
		アーカイブ配信	第6回高知市在宅医療・介護連携推進のための多職種研修会	・多職種連携で行う在宅医療 ～てくなるまで食べられるためには？～ ・取り組み発表 「本人・家族に寄り添う多職種連携について」	介護支援専門員
	ふくし交流プラザ	中央ブロック施設長会		施設長	
	zoom	令和4年度 高知県老協協 LIFE研修会	・講演「LIFEの概要、今後の展望など」 ・事例報告「自施設での導入の流れ、フィードバック情報の活用など」	介護支援専門員 管理栄養士 介護リーダー 総務	
	3月	zoom	介護事業所のための事業継続計画(BCP)作成セミナー	・サービス類型に応じた具体的なBCP作成のポイント ・感染症BCP、自然災害BCP	管理者 総務
東京ビッグサイト		東京ケアウィーク'23	国際介護用品展/介護施設産業展/介護施設ソリューション展 他	理学療法士 介護リーダー 介護主任	
動画視聴		令和4年度 給食関係者研修会	・最近の食中毒事例について ・献立の作成と評価について ・衛生管理と事故発生時の対応の備えについて	管理栄養士	
オンライン		メディカルケアサポートセミナー	・新時代の床ずれ対策ケアと排泄・入浴ケア ・"簡単便利で効果的"な進化するポジショニングケア	介護職員	
zoom ライブ配信		次回改正に向けたセミナー	・令和6年度の介護保険法改正動向について ・ケアプランデータ連携システムについて	総務	
オンライン		新型コロナウイルス感染症の5類感染症への移行にむけた研修		施設長 生活相談員 介護主任	
zoom		デイサービス事業継続等相談支援における「報告会」	・参加事業所からの報告(2事業所) ・参加事業所の報告を受けて(1):経営改善のポイント ・参加事業所の報告を受けて(2):これからのデイの経営	総務	
高知市保健福祉センター		令和4年度 高知市ケアマネジメント研修	アセスメント力向上研修 ～その人らしい自立した生活を支援するために～	介護支援専門員	

2. 特別養護老人ホーム スウィート・ハート・ホーム

重点目標

(1) 目標稼働率 96% ⇒ 実績 93.8%

上半期の平均稼働率は93.0%、下半期は94.6%となり目標を下回る結果となった。原因として令和4年2月に発生した新型コロナウイルスのクラスターにより、2月から4月の間で感染後に退所された方が9名いたことが挙げられる。経過観察期間中のフロアについては、新規入所者の受け入れが困難であったため、空床日数が増えた。また、想定外の退所者人数に対し優位者の確保が追いつかなかった。改善策として、入所申込者の調査・優位者の確保がスムーズにできるよう、膨大な人数となっていた入所申込者の整理を行った。200名弱まで人数を減らせたことで調査対象者のスムーズな選定が可能となり、常に優位者を確保した状態を保つことができるようになった。その後もクラスター発生により退所者が続いたが、早急に新規入所調整を行う事ができた。経過観察期間中の空床については対策が困難であるため、経過観察期間終了日を見越した新規入所の調整を行った。年間の新規入所者は30名、退所者は28名であった。

(2) 入院者減少に向けて

令和4年度の入院者数は64名で、令和3年度の87名を下回った。新型コロナウイルスのクラスターは、令和4年度に2度発生したが、抗ウイルス薬を発症後早期に服用することで重症化を防ぐことができた。そのことが入院者の減少につながったと思われる。今後も早期発見、予防に努め、素早い対応を行っていく必要がある。

口腔ケアについては、歯科衛生士による訪問を休止しているが、毎食後の口腔ケアは実施し、口腔内の清潔保持を継続している。

(3) 誤薬事故ゼロを目指すための取り組みについて

令和4年度の誤薬事故は1件で、昨年度の2件に比べて減少した。動画配信サービスを活用し、介護職員全員に視聴や復命書の提出を促したことで、誤薬事故に対する意識付けができた。

誤薬事故は防ぐことのできる事故であり、職員の思い込みや確認ミスが原因である。対策としては、決められた手順を遵守するとともに、職員個々の意識を高めていく必要がある。新人研修でも誤薬が起こった場合のリスクや対応等をしっかりと説明し、意識付けに努めていく。

(4) レクリエーション活動の充実について

健康状態の安定を図ることを目的として、午後から横になる入居者や、活動への参加が難しい入居者増えたが、少人数ではあるがレクリエーションに参加可能な入居者とコミュニケーションを図りながら日々のレクリエーションに取り組んでいる。

毎月の行事に関しては、季節を感じてもらえる行事を立案し、久しぶりの運動会や、初めての試みのスイカ割りを実施することができた。コロナ禍で2年間ほど外気に触れることが難しかったが、気候の良い季節には施設周辺の散策や買い物にも出掛けることができた。しかし、クラスター発生により、クリスマス会やケーキバイキング等の行事の中止を余儀なくされた。

(5) 認知症への対応力向上に向けた取り組みについて

外部研修の認知症実践者研修には、各フロア 1 名ずつの計 3 名の職員が参加して認知症の方への対応方法等を学び、3 名とも修了証をいただくことができた。

また、統一基本ケアの動画配信サービスを活用し、個々での学びの場を提供した。今後は、学びを実践の場で活用できるようにしていく。

(6) 自立支援、重度化防止の取り組みについて

入居者の身体機能が低下しないよう、自立支援を意識した関わりや機能訓練を行った。

新型コロナウイルスのクラスターが発生した際には、居室で過ごすことが多くなったが、感染対策を講じながら、できるだけホールで過ごしてもらうよう努めた。食事時にはベッド上ではなく車椅子に乘車し、職員の見守りのもと自力摂取を促す等、重度化を防止する取り組みを行った。

サービス内容

(1) 食事

管理栄養士と介護職、看護職が食事委員会等で意見交換しながら入居者の嗜好や嚥下状態に配慮した食事提供を行った。また、出前レクなどの行事を通じて食事を楽しんでもらえるよう取り組んだ。誕生日会においては、誕生月の入居者の器を豪華にし、赤飯やちらし寿司を提供するなど、見た目でもお祝いできるよう委託業者が工夫してくれている。

令和 4 年度は 2 名の入居者が入院中に胃瘻を造設された。退院後は、身体状況や体調に合わせて安全に栄養補給を行った。

(2) 入浴

入浴時には、皮膚状態の観察を行い、変化があれば看護師へ報告し対応している。また、入浴後には軟膏塗布等の対応も行っている。新型コロナウイルスの感染拡大時には、業務縮小のため入浴ができない期間が続き、入居者にご迷惑をおかけすることになったが、毎日の陰部洗浄は欠かさず行い、状況が落ち着いた頃からは、コロナ対応のフロア以外は全身清拭と更衣を実施し、清潔保持に努めた。

(3) 排泄

全入居者の排泄支援計画を作成し、取り組みを行っているが、自立までには至っていない。新規入居者で常時オムツを使用していた方は、可能な限りトイレ誘導を行って日中のトイレでの排泄を促し、紙カバーから紙パンツ、紙パンツから布パンツへ移行できるよう努めている。今後も、排泄支援計画に基づき、自立に向けた取り組みを行っていく。

(4) 機能訓練

入居者の身体機能の維持を図るため、機能訓練指導員が個別の計画を作成し、その計画に基づいて機能訓練を実施している。日常生活においても、排泄時の立位、移乗時の立位等、残存機能を活かした支援を行った。

(5) 健康管理

日頃から入居者の健康状態を観察し、いつもと違うと感じた場合には、看護師に報告し対応している。新型コロナウイルスに関しては、これまでに施設内で発生したクラスターにより対応方法を学び、落ち着いた対応ができるようになってきている。今後も、ワクチン接種や日々の感染防止対策により、入居者及び職員の感染を防止していく。

ノーリフティングケアにおいては、身体の使い方を工夫したり、福祉用具を活用したりするなど、少しずつではあるが取り組みが浸透してきている。

(6) 看取りケア

令和4年度の看取りケア実施人数は3名であった。3名のうち2名の方は、現在も看取りケア継続中であるが、状態は安定している。看取りケアの取り組みについては、入所時を含め、折を見て家族には伝えているが、家族の意向はそれぞれなので、今後も、本人、家族の意向に寄り添いながら関わっていく。

令和4年度加算取得一覧表

スウィート・ハート・ホーム

加算項目	単位	実人数	延人数	取得率 ※1	稼働率100% の場合	実収入額	差額
日常生活継続 支援加算	36	954	27,384	94%	10,512,000	9,858,240	△ 653,760
個別機能訓練加算 Ⅰ	12	954	27,384	94%	3,504,000	3,286,080	△ 217,920
個別機能訓練加算 Ⅱ	20 /月	954	27,384	99%	192,000	190,800	△ 1,200
夜勤職員配置加算	16	954	27,384	94%	4,672,000	4,381,440	△ 290,560
看護体制加算 Ⅰ	4	954	27,384	94%	1,168,000	1,095,360	△ 72,640
看護体制加算 Ⅱ	8	954	27,384	94%	2,336,000	2,190,720	△ 145,280
生活機能向上 連携加算	100 /月	954		99%	960,000	954,000	△ 6,000
科学的介護 加算Ⅱ	50 /月	954		99%	480,000	477,000	△ 3,000
口腔衛生管理 体制加算	110 /月	0		0%	1,056,000	0	△ 1,056,000
再入所時栄養 連携加算	200 /回	1			2,000	2,000	
看取り体制加算 (死亡日)	1,280	0			0	0	
看取り体制加算 (2~3日)	680	0			0	0	
看取り体制加算 (4~30日)	144	0			0	0	
看取り体制加算 (31~45日)	72	0			0	0	
療養食加算	6 /食	147	12,795		767,700	767,700	
初期加算	30	72	1,070	※2	321,000	321,000	
入院・外泊時費用	246	53	278		683,880	683,880	
安全対策体制加算	20 /回	30			6,000	6,000	
褥瘡マネジメント加算Ⅰ	3 /月	10			300	300	
褥瘡マネジメント加算Ⅱ	13 /月	944			122,720	122,720	
排泄支援加算Ⅰ	10 /月	831			83,100	83,100	
排泄支援加算Ⅱ	15 /月	81			12,150	12,150	
排泄支援加算Ⅲ	20 /月	40			8,000	8,000	
					26,886,850	24,440,490	△ 2,446,360

※1 各月の取得率は定員数に日数をかけた数で延べ人数を割った数字となっている。

※2 当加算については、該当利用者へ算定するものであり、取得率等表示しない。

【日常生活動作】

在籍者数 80名

(令和5年3月31日)

項目	介護状況	入居者実数	構成比	備考
歩行	自立歩行	2	2.5%	
	歩行補助器(手引き)	6	7.5%	
	車椅子	72	90.0%	
食事	自力摂取	26	32.5%	
	一部介助	24	30.0%	
	全介助	33	41.3%	
入浴	自立	1	1.3%	
	一部介助	24	30.0%	
	全介助	55	68.8%	
排泄	自立	2	2.5%	
	一部介助	31	38.8%	
	全介助	47	58.8%	
更衣	自立	2	2.5%	
	一部介助	22	27.5%	
	全介助	56	70.0%	
整容	自立	5	6.3%	
	一部介助	26	32.5%	
	全介助	49	61.3%	
意思疎通	自立	22	27.5%	
	一部介助	35	43.8%	
	全介助	23	28.8%	

【行事实績】

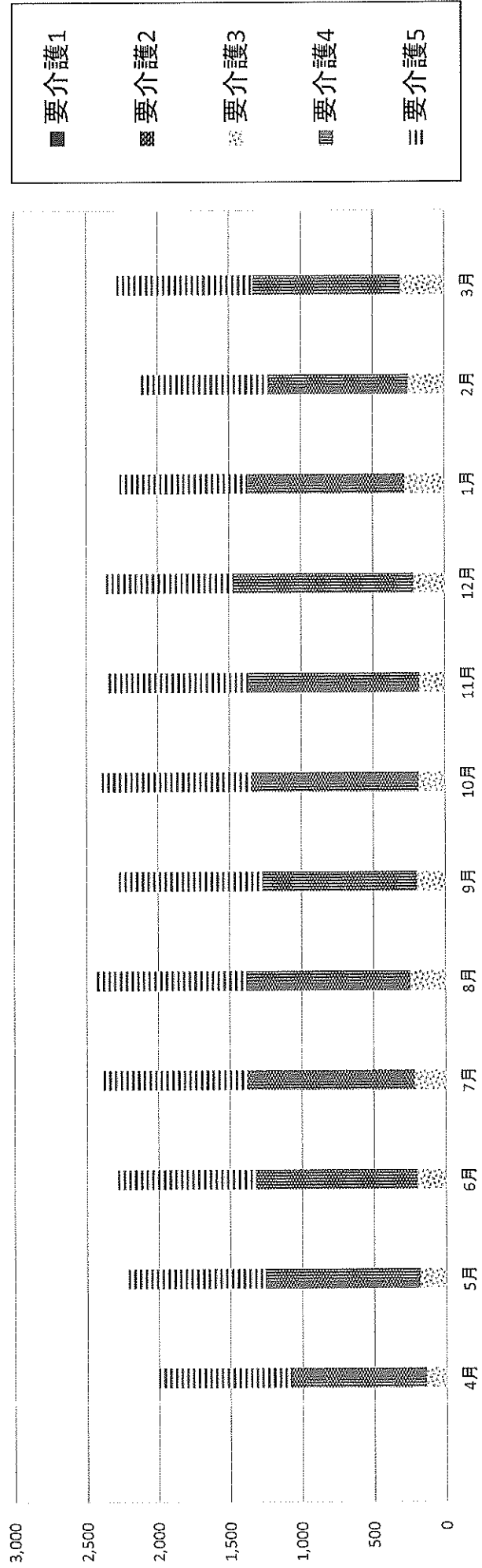
(S-ショートステイ利用者数)

実施年月	行事名	参加入居者数	内容
令和4年	4月	生け花	17名(S-5名) 4月13日
		おやつレク	59名(S-11名) 4月20日
		スウィート・カフェ	73名(S-15名) 4月27日
	5月	生け花	15名(S-3名) 5月18日
		散策	14名(S-0名) 5月10日、16日、17日、19日
		スウィート・カフェ	82名(S-13名) 5月25日
	6月	生け花	19名(S-4名) 6月8日
		出前レク	41名(S-1名) 6月15日、22日
		スウィート・カフェ	84名(S-14名) 6月30日
	7月	生け花	13名(S-8名) 7月6日
		夏祭り(各フロアにて)	89名(S-14名) 7月13日、20日、27日
		暑中見舞いハガキ	86名(S-6名) 7月下旬
	8月	生け花	17名(S-7名) 8月17日
		スイカ割り	48名(S-11名) 8月24日
		スウィート・カフェ	80名(S-11名) 8月31日
	9月	敬老会	83名(S-15名) 9月14日
		生け花	21名(S-9名) 9月21日
		スウィート・カフェ	84名(S-15名) 9月28日
	10月	運動会	79名(S-12名) 10月20日
		スウィートカフェ	84名(S-14名) 10月27日
	11月	生け花	14名(S-5名) 11月9日
年賀状壁画作り		5名(S-1名) 11月上旬	
スウィートカフェ		86名(S-15名) 11月30日	
12月	クリスマス会	31名(S-5名) 12月21日(新館)	
	年賀状作り	81名(S-5名) 12月25日頃まで	
	生け花	10名(S-2名) 12月28日(新館)	
令和5年	1月	お正月デイ	名(S-名) 新型コロナウイルス感染拡大のため中止
		生け花	8名(S-7名) 1月25日
		スウィート・カフェ	83名(S-14名) 1月25日
	2月	生け花	7名(S-3名) 2月16日(新館)
		ケーキバイキング	30名(S-4名) 2月22日(新館、4階)
	3月	生け花	23名(S-7名) 3月15日
		散策	9名(S-0名) 3月27日、28日、29日
		スウィート・カフェ	81名(S-13名) 3月29日

【入居者構成表】

	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		合計		
	実数	延数	実数	延数	実数	延数	実数	延数	実数	延数	実数	延数	実数	延数	実数	延数	実数	延数	実数	延数	実数	延数	実数	延数	実数	延数	
要介護1																											
要介護2																											
要介護3	7	143	7	185	7	202	7	217	8	246	7	198	6	186	6	180	7	217	9	279	9	252	10	305	90	2,610	
要介護4	39	942	41	1,074	41	1,114	42	1,166	37	1,139	39	1,072	39	1,164	40	1,183	41	1,254	40	1,087	38	968	38	1,029	475	13,192	
要介護5	37	923	33	959	33	973	33	1,005	35	1,046	36	1,007	36	1,045	36	983	32	891	35	902	34	895	33	953	413	11,582	
合計	83	2,008	81	2,218	81	2,289	82	2,388	80	2,431	82	2,277	81	2,395	82	2,346	80	2,362	84	2,268	81	2,115	81	2,287	978	27,384	

令和4年度 入居者構成表



【各種構成指標】

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計／平均
事業日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
平均要介護度	4.2	4.2	4.2	4.2	4.3	4.3	4.3	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	4.31
1日平均入居者数	66.9	71.5	76.3	77.0	78.4	75.9	77.3	78.2	76.2	73.2	75.5	73.8	75.0
満床率	83.6%	89.4%	95.4%	96.3%	98.0%	94.9%	96.6%	97.8%	95.3%	91.5%	94.4%	92.3%	93.8%

【保険者別入居者数】

(令和5年3月31日)

	高知市	いの町	佐川町	四万十町	香美市	安芸市	合計
利用者数	71	3	1	1	1	2	79

【男女構成】

(毎月1日数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
男性	11	10	12	12	12	13	14	14	15	14	14	14	155
女性	67	64	68	68	67	67	66	66	65	65	66	65	794

【年齢構成】

(令和5年3月31日)

	64歳以下	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90～94歳	95～99歳	100歳以上	合計	平均	最低年齢	最高年齢
男性	1	1	1	5	5	5	1	1		14	84歳	68歳	96歳
女性	2	2	2	5	11	15	16	10	5	66	88歳	66歳	102歳
合計	0	3	3	5	16	20	17	11	5	80	87歳		

【利用者負担段階】

(毎月実人数算定)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
第1段階	8	7	7	8	8	8	8	8	9	9	8	8	96
第2段階	12	11	10	11	11	10	12	12	11	11	11	11	133
第3段階①	14	15	15	16	18	20	18	18	17	17	16	16	200
第3段階②	18	14	15	15	14	15	14	15	14	16	16	16	182
第4段階	31	34	34	32	29	29	29	29	29	31	30	30	367
合計	83	81	81	82	80	82	81	82	80	84	81	81	978

【入居者】

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
要介護1	男													0
	女													0
要介護2	男													0
	女													0
要介護3	男					1								1
	女	1							1				1	3
要介護4	男	1	2				1		1					5
	女	3	3	1	2		1	1	1		3		1	16
要介護5	男										1			1
	女		2								1	1		4
合計		5	7	1	2	1	2	1	2	1	5	1	2	30

【退居者】

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
要介護1	男													0
	女													0
要介護2	男													0
	女													0
要介護3	男													0
	女						1							1
要介護4	男	2								1	1	1		5
	女	2		1	3		1	1			1	1	1	11
要介護5	男													0
	女	5	1						3		2			11
合計		9	1	1	3	0	2	1	3	1	4	2	1	28

3. 短期入所生活介護 / 介護予防短期入所生活介護

重点目標

(1) 目標稼働率 85% ⇒ 実績 84.6%

令和4年度の稼働率は84.6%で、目標稼働率には届かなかった。要因としては、新型コロナウイルスの影響もあるが、新規利用者75名のうち定期利用に繋がったのが約1割であることから、リピート率の低迷も挙げられる。また、施設入所や状態悪化等で利用中止になる方も多くいた。今後も、新規利用者の獲得とリピート率の向上に努めていく。

(2) 稼働率向上に関する取り組みについて

困難事例や緊急の利用依頼に対して、十分ではないものの昨年度よりは受け入れをすることができた。さらなる受け入れを行えるように、受け入れ体制を強化し、空室を少なくしていく必要がある。また、各関係機関・利用者・家族との信頼関係の構築を図り、新規利用者の獲得、リピート利用につなげていく。

(3) レクリエーション活動の充実について

日々のレクリエーションへ参加していただき、他者と交流しながら少しでも楽しい時間を過ごしてもらえるように努めた。長期利用されている方に関しては、入居者と同様に暑中見舞いや年賀状を一緒に作成し、家族に送付した。

(4) 個別機能訓練の実施について

ショートステイ専属の機能訓練指導員を配置したことにより、利用者の身体機能等の維持に努めることができた。個別機能訓練の実施は、新規利用者の獲得や継続した利用につながるケースもあることから、個別機能訓練の提供は今後も必要不可欠である。

サービス内容

多職種が連携し、在宅生活の継続と充実を目指したサービス提供に努めた。また、機能訓練指導員による個別機能訓練を実施することにより、日常生活動作の維持向上と機能低下を予防することができた。送迎に関しても、利用者・家族の希望にできる限り添うように取り組んだ。今後、さらなる充実したサービス提供に努めていく。

令和4年度加算取得一覧表

スウィート・ハート・ホーム ショートステイ

加算項目	単位	実人数	延人数	取得率 ※1	稼働率100% の場合	実収入額	差額
機能訓練 体制加算	12	517	4,894	84%	700,800	587,280	△ 113,520
夜勤職員 配置加算Ⅲ	15	517	4,894	84%	876,000	734,100	△ 141,900
サービス提供 体制加算Ⅰ	22	517	4,894	84%	1,284,800	1,076,680	△ 208,120
個別機能訓練 加算	56	270	1,530	57%	※3 1,505,280	856,800	△ 648,480
緊急受入加算	90	3	18	※2	16,200	16,200	
送迎加算	184	367	991		1,823,440	1,823,440	
長期利用者 提供減算	△ 30	69	1,690		△ 507,000	△ 507,000	
					5,699,520	4,587,500	△ 1,112,020

※1 各月の取得率は定員数に日数をかけた数で延べ人数を割った数字となっている。

※2 当加算については、該当利用者へ算定するものであり、取得率等表示しない。

※3 個別機能訓練加算は、機能訓練指導員が勤務した日に加算算定するものである。
取得率は勤務日数での割合となっている。

4. デイサービスセンター サムフォット(通所介護 / 第1号通所事業)

重点目標

- (1) 目標稼働率 80% ⇒ 実績 64.9%

新規利用者を獲得するために困難事例の受け入れを積極的に行ったが、死亡や入院で利用中止者が相次いだり、新型コロナウイルスの影響によって利用休止になったりするなどしたため、稼働率が上がらず目標を達成することができなかった。今後は他事業所にはないサムフォットの強みを作り、居宅への営業活動や、新規事業所の開拓、困難事例の積極的な受け入れなどを行い、実績を作っていく。

- (2) 稼働率向上に関する取り組みについて

年間を通じ、居宅への電話連絡時には空き情報を伝えるなどして営業活動を行った。また、コロナ感染者数の減少に伴い、居宅へ出向いての営業も少しずつ再開した。見学者の受け入れについては、依頼があった際には感染対策を徹底したうえで受け入れを行った。利用者の重度化防止については、利用者の体調の変化に留意し、早期発見、早期対応を心掛けた。引き続き、職員間で連携して可能な限りの対応を行い、重度化防止に努めていく。

- (3) 利用者満足度の向上について

サービス利用時には、利用者と一緒にコミュニケーションを取り、信頼関係の構築に努めた。また、利用者を楽しんでもらえるようにと、レクリエーションの充実を図った。家族に対しては、送迎時や電話連絡の際に、利用中の状態や自宅での変化などの情報交換を行った。サービス利用中に家族の急な用事等が入った場合には、急遽夕食サービス利用に切り替えるなど柔軟に対応し、家族のニーズに則したサービスが提供できるよう努めた。

- (4) 夕食サービスの送迎と自宅での支援について

現在は配食サービスを利用されている方が数名おり、夕食サービスを利用される方が少なくなってきたが、支援内容は今までと変わりなく、自宅内での支援を希望する方に対して必要な支援を実施するなど、個別ニーズに応じた対応を行った。夕食サービスの利用者ではない方についても、要望があればケアマネージャーと相談して対応している。

サービス内容

(1) 食事

嚥下機能が低下している利用者が安全に食事摂取できるように、管理栄養士と連携しながら刻み食、一口大など、利用者個々の状態に合わせた食事提供を行った。また、主食がご飯ではなくパンが好みの利用者にはパンの提供も行った。胃瘻の方についても、食べることを忘れて欲しくないという家族からの希望があり、無理のない範囲で口から摂取していただくようにした。イベント時には、弁当形式にするなど趣向を凝らした食事を提供した。

(2) 入浴

利用者一人ひとりの介助内容や体調、状態に合わせて特浴、一般浴の使い分けを行い、安全に配慮したうえで入浴サービスを提供した。入浴時には全身状態を観察し、身体の変化や、外傷の有無等の早期発見に努め、家族や関係機関と情報を共有した。冬至の時には風習に倣ってゆず風呂にするなど、利用者に季節を感じてもらえるよう工夫した。

(3) 排泄

排泄チェック表を活用して利用者個々の排泄パターンを把握し、パットの吸収量に尿量が合っているか等を家族に伝えるよう心掛けた。また、排便チェックを行い、主治医の指示のもと、薬の調整や摘便処置等、排便コントロールに努めた。自宅ではベッド上だけで排泄支援を行っている利用者にも、トイレで排泄できるようにとトイレでの排泄支援を行った。

(4) 機能訓練

身体機能の維持向上を目的とし、利用者が楽しみながら継続できるレクリエーションに取り組んだ。また、歩行訓練や上肢の訓練時間を作り、利用者個々のペースや体調に合わせた訓練を行った。余暇時間には個別に認知機能に働きかける脳トレや、手先の訓練、生活リハビリで洗濯物を畳んでもらうなど、活動的に過ごしていただけるよう努めた。

(5) 健康状態の確認

送迎時の家族とのコミュニケーションや連絡帳に関しては介護職、体温・血圧・脈の測定や、服薬管理、身体管理は看護師が中心となり、介護、看護が連携しながら利用者の健康状態の把握に努めた。また、必要に応じて家族、主治医と連絡を取り、指示に基づいた対応を行った。感染症については、前年度に引き続き、利用者にはインフルエンザ発症は認められなかったが、新型コロナウイルス感染者は数名いた。

(6) 送迎サービス

利用者の身体状況を踏まえたうえで、できるだけ家族の要望に沿った運行計画書を作成した。利用者の状態により送迎車両を変更したり、火元、荷物、服薬確認をしたりすることで利用者及び家族が安心してサービスを利用できている。歩行状態が悪い利用者には施設の車椅子を貸出すなどの支援を行った。また、感染を持ち込まないようにするため、迎え時に自宅での検温を実施した。

令和4年度加算取得一覧表

サムフォット

加算項目	単位	実人数	延人数	取得率 ※1	稼働率100% の場合	実収入額	差額
中重度者ケア 体制加算	45	392	4,567	60%	3,453,750	2,055,150	△ 1,398,600
サービス提供 体制加算Ⅱ	18	392	4,851	63%	1,381,500	873,180	△ 508,320
入浴加算	40	671	3,920	51%	3,070,000	1,568,000	△ 1,502,000
科学的介護 加算	40	390	390	} ※2	156,000	156,000	
認知症加算	60	118	1,394		836,400	836,400	
送迎減算	△ 47	41	64		△ 30,080	△ 30,080	
					8,867,570	5,458,650	△ 3,408,920

※1 各月の取得率は定員数に日数をかけた数で延べ人数を割った数字となっている。

(日曜日、年末年始は閉所のため、開所日の307日で計算している。25名定員)

※2 当加算については、該当利用者へ算定するものであり、取得率等表示しない。

【年齢構成】（介護予防含）

（令和5年3月31日）

	64歳以下	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90～94歳	95歳以上	計	平均年齢	最低年齢	最高年齢
男		1	1	4	3	3	4		16	83歳	69歳	93歳
女		1	1	6		5	4	3	20	85歳	69歳	99歳
計	0	2	2	10	3	8	8	3	36	83.6歳		

【行事实績】

実施年月	行事名	内容	
令和4年	4月	回想レク	昔の写真を使用し当時の生活を回想する
		スポーツレク	身体を使ったレク
		ゲームレク	
		喫茶・誕生会	
		ミュージックレク、音楽レク	楽器を使い身体を動かす、歌集使用し歌う
	5月	傘輪投げ、鯉のぼり運動会、風船バレー	傘の柄の部分を使用し新聞紙で作った輪を投げて点数を競う
		ことわざカルタ、都道府県カード、歌カルタ	各カードを使用し歌を歌ったり、県名を作る
		喫茶・誕生会、読み聞かせレク	本や紙芝居の読み聞かせ
		ミュージックレク、音楽レク	
		ジェスチャーゲーム	身振り手振りで相手に伝える
	6月	ジェスチャーゲーム	
		カレー・すき焼き・チラシ寿司レク	家族を作り、カードを引いて目的の料理の具材を集める
		喫茶・誕生会、出前レク	外食の雰囲気を楽しむ
		箱引き・物送りレク	隣同士の利用者が協力し合って物を送る
		輪抜けレク	輪抜けの雰囲気を楽しんでもらう
	7月	短冊作り、短冊飾り	短冊記入、笹に飾り付け
		読み聞かせ	
		喫茶・誕生会	
		夏祭り、フリーレク	季節行事を楽しむ
		ことわざカルタ	ことわざにちなんだカルタ取り
8月	回想レク	昔を懐かしむ	
	スポーツレク		
	喫茶・誕生会		
	カードゲームレク	お題を決め、そのお題にちなんだ言葉を作る	

令和4年	9月	ミュージックレク	
		釣りゲーム	床に並べた魚を竿で釣り上げる
		喫茶・誕生会	
		回想レク・敬老会	
	10月	カレー・すき焼き・チラシ寿司レク	
		カルタレク	土佐弁カルタ、食育カルタ
		読み聞かせ	
		喫茶・誕生会、ケーキバイキング	
		運動会、ミュージックレク	
	11月	カルタレク	
		釣りゲーム	
		喫茶・誕生会	
		フリーレク	
	12月	イチゴ狩りレク	他者と協力し偽イチゴを洗濯ピンチに付ける
		カルタレク	
		喫茶・誕生会、回想レク	
クリスマス会・正月準備			
令和5年	1月	正月遊び	駒回し・福笑い
		初釜・書初め・硬筆	正月の雰囲気を感じてもらう
		喫茶・誕生会	
		ミュージックレク、カードレク	
	2月	おやつレク	節分ロールを作り季節を感じる
		物覚えレク	いくつかの物を箱に入れ、歌を歌いながら中身を思い出す
		喫茶・誕生会	
		ミュージックレク	
	3月	カレー・すき焼き・チラシ寿司レク	
		ケーキバイキング	
		喫茶・誕生会、出前レク	
		せんべい・寿司・イチゴゲーム	

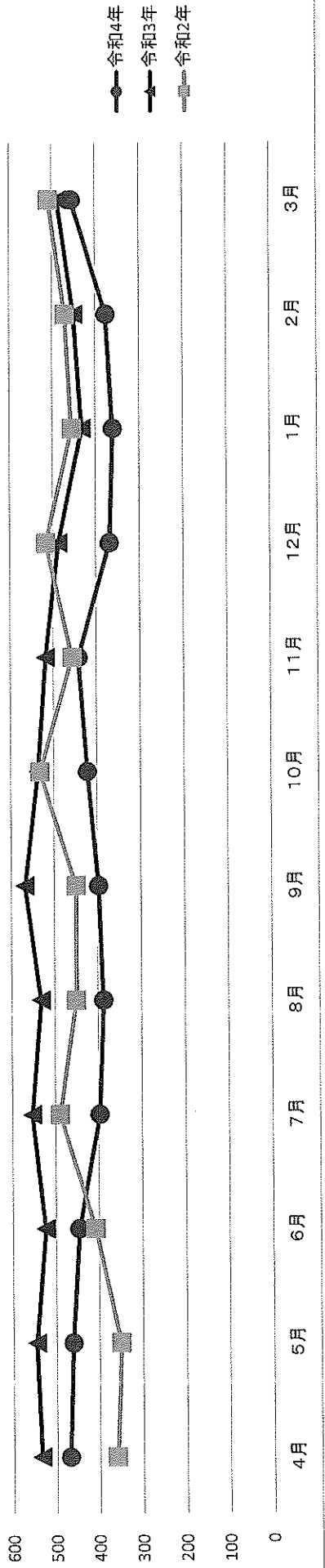
【ディスプレイセンターサムフォット利用者構成表】

	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		合計／平均		
	実数	延数	実数	延数	実数	延数	実数	延数	実数	延数	実数	延数	実数	延数	実数	延数	実数	延数	実数	延数	実数	延数	実数	延数	実数	延数	
介護保険	要支援2	1	9	1	7	1	8	1	9	1	9	1	8	1	9	1	8	1	7	1	8	1	8	1	9	12	99
	要介護1	6	93	6	98	6	92	7	100	9	121	10	119	9	114	9	125	9	97	7	87	7	89	9	124	94	1,259
	要介護2	6	95	6	96	6	98	6	84	4	61	5	74	4	55	2	38	4	57	4	54	3	55	3	59	53	826
	要介護3	11	132	10	119	8	114	8	113	9	114	8	110	9	105	8	117	8	91	10	121	9	113	10	126	108	1,375
	要介護4	7	91	6	89	7	88	6	54	6	46	3	29	5	72	8	92	7	58	5	47	8	56	8	83	76	805
合計	要介護5	5	49	5	52	6	46	5	37	4	36	6	57	6	67	6	62	4	59	5	44	5	55	5	54	62	618
	合計	36	469	34	461	34	446	33	397	33	387	33	397	34	422	34	442	33	369	32	361	33	376	36	455	405	4,982
平均要介護度	2.8		2.7		2.8		2.6		2.5		2.6		2.8		2.8		2.8		2.8		2.8		2.8		2.7		

その他(総合事業含)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
------------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

事業日数	26	26	26	26	27	25	26	26	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	27	307
1日平均利用者数	18.0	17.7	17.2	15.3	14.3	15.9	16.2	16.2	15.4	15.0	15.7	15.7	15.7	15.7	15.7	15.7	15.7	15.7	15.7	15.0	15.0	15.7	16.9	16.9	16.2
稼働率	72.2%	70.9%	68.6%	61.1%	57.3%	63.5%	64.9%	60.2%	61.5%	60.2%	62.7%	62.7%	62.7%	62.7%	62.7%	62.7%	62.7%	62.7%	62.7%	60.2%	60.2%	62.7%	67.4%	67.4%	64.9%

サムフォット利用者 延べ人数推移



5. 居宅介護支援事業所 ポム

重点目標

(1) 目標稼働率 80% ⇒ 実績 64.4%

令和4年8月より職員体制が2名体制から3名体制に移行した。2名体制の時は50%台後半の稼働率であったが、人員増に伴った利用者の移行とその後の新規利用者の紹介もあって現在は70%近くまで稼働率が上がってきている。しかし、まだ目標値には届いていないため、今後も新規利用者確保に向けての取り組みや関係機関との関係性づくりに努めていきたい。

令和4年12月からは特定事業所加算を算定できる体制を整えた。今後は、運営基準減算にならないよう、必要な書類や手続きの再確認を行うなど、管理体制を強化していく。また、その他算定に必要な研修や事例検討会等にも確実に参加し、算定体制を維持していく。

(2) 稼働率向上に関する取り組みについて

新型コロナウイルスの影響によって関係機関に直接訪問する機会が減少している。医療機関については、入退院時などの連絡機会を通じての営業宣伝活動を行っているので、これを継続していきたい。地域包括支援センターについては、地域ケア会議や研修を通じて関わっており、紹介にも繋がっている。今後も研修等に積極的に参加して情報交換や信頼関係の構築に努め、新規利用者の紹介につなげていく。

(3) 介護支援専門員の質の向上と公正中立性の確保について

事業所内で定期的なミーティングを開催し、情報や意見交換を行うとともに、月に1回事業所内の事例検討会を行っている。令和5年2月には見学実習の受け入れ、指導なども行った。また、新型コロナウイルスの影響でたびたび中止もあったが、鴨田地区と朝倉地区の地域ケア会議や複数事業所が参加する事例検討会にも参加した。さらに、高知市居宅介護支援事業所協議会で開催するブロック研修会や全体研修会、高知市が開催する各研修会にも積極的に参加し、知識向上やアセスメント技術向上につなげることができた。

令和5年度も各研修への参加を継続していく。事業所内においては、定期ミーティングの継続に加え、各職員が参加した事例検討会や自己学習の報告を行っていくこととする。

(4) 関係機関等との連携強化について

ケースや研修などを通じて地域包括支援センターと関わりを持ち、互いに名前を憶えてもらうような関係づくりを行った。虐待に関する情報提供については、研修に参加し、その内容を職員間で共有した。今後も関連機関と積極的に情報交換を行い、連携を密にしていく。

サービス内容

(1) 居宅介護サービス計画の作成

利用者の状況の変化に合わせて居宅サービス計画を作成し、利用者や家族に丁寧に説明を行った。また、利用者や家族の声に耳を傾け、ニーズを把握するよう心がけた。

今後もニーズの発掘や目標設定等に繋がるよう、アセスメント能力の向上に努めるとともに、サービスの質や技術の向上にも取り組んでいく。

(2) 関係機関との連絡調整

サービス事業所と連絡を取り、介護サービス計画書や利用状況の確認、情報交換を行った。また、居宅サービス計画書や利用者・家族のニーズとサービス内容とにずれが生じていないかなど、利用者の状態にあった適切なサービスが提供されているかを定期的に確認した。

(3) ニーズ調査の為の訪問の実施

利用者の状態や生活状況及び目標に沿って適切にサービス提供されているかを確認するため、毎月 1 回は利用者の居宅に訪問しモニタリングを行った。利用者の状態や生活状況に変化があった場合は、居宅サービス計画書を変更した。また、必要に応じて営業時間外の対応や土日の訪問なども行った。

令和4年度加算取得一覧表

居宅 ポム

加算項目	単位	実人数	取得率 ※1	稼働率100% の場合	実収入額	差額
特定事業所 加算Ⅲ	309	259	67%	1,186,560	800,310	△ 386,250
初期加算	300	49	}	※2	147,000	
通院時情報連 携加算	50	11			5,500	
退院・ 退所加算Ⅰ	450	8			36,000	
退院・ 退所加算Ⅱ	600	2			12,000	
入院時情報 連携加算Ⅰ	200	25			50,000	
入院時情報 連携加算Ⅱ	100	4			4,000	
						1,186,560

※1 各月の取得率は定員数に日数をかけた数で延べ人数を割った数字となっている。

ケアマネ3名配置（稼働率100%の場合）
一人当たりの利用者数 39名（内訳 介護32名、予防14名）

※2 当加算については、該当利用者へ算定するものであり、取得率等表示しない。

【居宅介護支援事業利用者構成表】

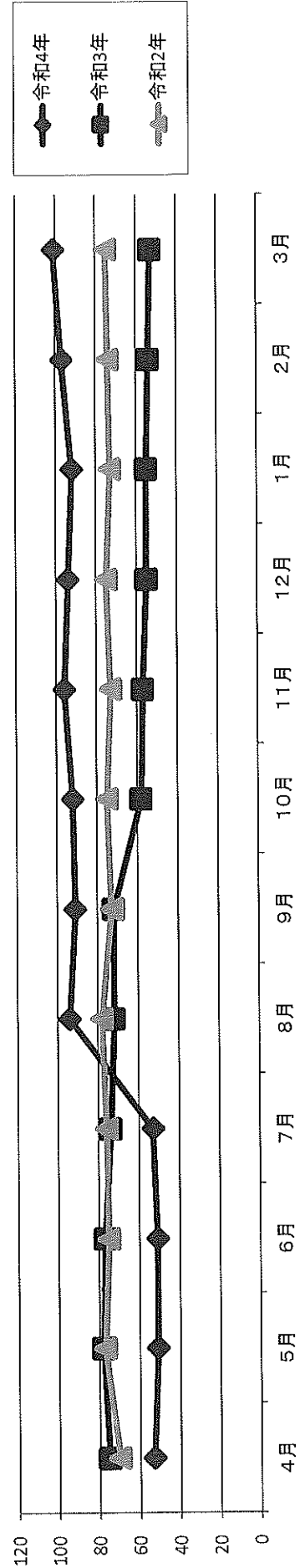
	4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月												合計/平均	
	実数	実数	実数	実数	実数	実数	実数	実数	実数	実数	実数	実数	実数	実数
介護支援1	8	8	8	8	8	10	11	10	9	10	8	8	7	103
介護支援2	8	7	7	8	19	17	16	21	22	21	21	23	27	196
予防	16	15	15	16	27	27	27	31	31	31	29	31	34	299
平均要支援度	1.5	1.5	1.5	1.5	1.7	1.6	1.6	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.8	1.7

介護保険	13	13	11	13	32	28	27	28	25	24	24	27	26	267
要介護1	12	13	11	10	17	20	21	22	22	22	22	22	24	216
要介護2	10	8	11	11	13	12	13	10	9	11	11	12	11	131
要介護3	1	1	2	2	5	4	4	5	6	5	5	5	6	46
要介護4	1	1	1	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	6
要介護5	37	36	36	37	67	64	65	65	63	63	63	66	67	666
合計	2.1	2.0	2.2	2.1	1.9	1.9	1.9	1.9	2.0	2.0	2.0	1.9	2.0	2.0

利用者計	53	51	51	53	94	91	92	96	94	92	92	97	101	965
------	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----

利用率(上限39名/1人当)	57.7%	56.4%	56.4%	57.7%	69.2%	62.4%	68.3%	69.2%	67.5%	66.7%	70.0%	71.8%	71.8%	64.4%
----------------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

居宅介護支援利用者延人数推移



6. 小規模多機能型居宅介護事業所 サイタ

(小規模多機能型居宅介護 / 介護予防小規模多機能型居宅介護)

重点目標

(1) 目標稼働率 90% ⇒ 実績 89.9%

稼働率、収入ともに目標に届かなかった。その主な要因としては、入院の長期化等によって利用終了となるケースが多かったが、終了後速やかに新規利用者を獲得できなかったことが挙げられる。また、昨今の物価高騰による介護にかかる費用の増加などから、自己負担が発生する宿泊のニーズが減少したことも収入が減少した要因の一つである。

新規登録者の内訳としては、他居宅（包括含む）が3割、病院からの紹介が7割であった。

(2) 地域との連携に向けた取り組みについて

地域運営推進会議は令和4年11月より再開することができた。しかし、新型コロナウイルスの流行によって令和5年1月の開催は中止となった。翌月には再開することができたが、参加者が少ない中での開催となった。地域との関係性を保つために、今後は定期的な開催を目指していく。

サイタの地域交流ルームで実施していた百歳体操は、令和5年3月から再開した。その百歳体操の場においては、高知市の介護予防の取り組みとして、基幹型包括支援センターの管理栄養士が高齢者の食事指導を行っている。男の料理教室の再開については未だ検討中である。今後も、地域住民の活動の場として地域交流ルームを開放し、地域住民との絆づくりにつなげていきたい。

(3) 稼働率向上に関する取り組みについて

稼働率を向上させるための取り組みとして、北部、南部など、エリアを拡大して利用者の獲得を試みた。令和4年度は地域包括支援センターからの紹介は2名に留まったが、兼ねてより行き来のある近隣の病院からの相談が増加している。

実践の中でこだわってきたのは、「目の前の1人を支える」ということである。そのために、家庭的な雰囲気づくりに努めるとともに、ひとりの高齢者の状態や家庭環境、人間関係やライフスタイルに合わせた支援を行った。今後もそういった支援を継続し、稼働率の向上につなげていきたい。

(4) 重度化対策及び在宅での看取り支援に関する取り組みについて

令和4年度の平均介護度は2.7だった。令和3年度の平均介護度も2.7であったことから、利用者の入れ替わりはあったものの、利用者のレベルは一定に保たれている。

利用者の重度化を防止するための対策として、事業所内においては、看護師を中心として生活リハビリや運動器具を使用した筋力アップ訓練を実施した。また、地域性も視野に入れた重度化への取り組みとして、医療行為や訪問系医療サービスを導入し、重度者への対応を行った。

令和4年度は看取りを希望する方はいなかったため、自宅での看取りや事業所での看取りは行っていないが、今後希望者がいれば前向きに対応していきたい。

(5) 認知症ケアへの取り組みについて

認知症ケアの原点である「その人らしい生活」を継続するため、能力に応じた個別レク（塗り絵、創作）や家事活動などの取り組みを行った。また、看護師がケアマネとともに利用者の自宅を訪問し、介護者の不安や悩みについて耳を傾け、薬の管理方法の確認を行うなど、家族が安心して生活できるように取り組んだ。夫が不安を持ちながら重度のアルツハイマー病の妻を介護している事例もあり、支援策として地域に配属されている生活支援員の派遣を要請するなど近隣の公的機関との連携も試みた。

高知県が主催する認知症実践者研修に1名の職員が参加し、無事修了することができた。研修で学んだことを職員間で共有し、実践の場で活かしていきたい。

サービス内容

(1) 通いサービス

重度化してもそれぞれの希望に沿った利用回数や滞在時間を実現し、機能訓練や生活リハビリに重点を置いた支援を行うことで、介護保険の本来の目的である在宅生活の継続につながった。

(2) 泊まりサービス

自宅で過ごしている時のように、一人ひとりに合った環境を整え、就寝、起床時間についても時間を決めず不安なく過ごしてもらえるように支援した。

令和4年度は泊りを希望する利用者が激減したが、年度末には利用者の入れ替わりなどで徐々に増加しつつある。

(3) 訪問サービス

通いサービスを利用していない日には、ひとり暮らしの方の日常生活全般の支援や受診介助、買い物同行、外食を楽しむ支援など幅広くサービスを行い、生きがいや喜びを感じていただけるよう努めた。また、令和4年末の大雪の際にも、徒歩や自転車を使い、ひとり暮らしの利用者宅に出向いて食事の準備や排泄支援を行うなど柔軟な対応を行った。

令和4年度加算取得一覧表

小規模多機能型居宅介護 サイタ

加算項目	単位	実人数	取得率 ※1	稼働率100% の場合	実収入額	差額
看護職員配置 加算Ⅰ	900 /月	202	90%	2,025,000	1,818,000	△ 207,000
看護職員配置 加算Ⅱ	700 /月	67	89%	525,000	469,000	△ 56,000
総合マネジメ ント加算	1,000 /月	269	90%	3,000,000	2,690,000	△ 310,000
訪問体制強化 加算	1,000 /月	269	90%	3,000,000	2,690,000	△ 310,000
サービス 提供体制Ⅱ	640 /月	269	90%	1,920,000	1,721,600	△ 198,400
科学的介護 加算	40 /月	269	90%	120,000	107,600	△ 12,400
認知症加算Ⅰ	800 /月	83	} ※2		664,000	
認知症加算Ⅱ	500 /月	31			155,000	
初期加算	30 /日	381			114,300	
				10,590,000	10,429,500	△ 1,093,800

※1 各月の取得率は定員数に日数をかけた数で延べ人数を割った数字となっている。

※2 当加算については、該当利用者へ算定するものであり、取得率等表示しない。

【年齢構成】（介護予防含）

（令和5年3月31日）

	64歳以下	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90～94歳	95歳以上	計	平均年齢	最低年齢	最高年齢
男				2	1		2	1	6	86歳	76歳	96歳
女			3	1	3	3	6	1	17	85歳	73歳	95歳
計	0	0	3	3	4	3	8	2	23	84歳		

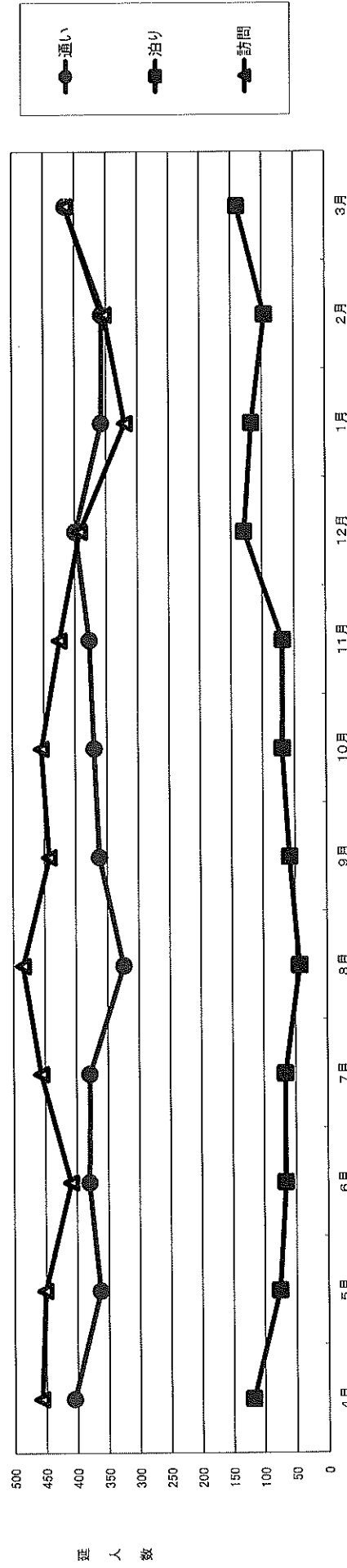
【行事实績】

実施年月	行事名	内容	
令和4年	6月	あじさい見物とドライブ(6/7)	土佐市親水公園
	7月	七夕(7/7)	ゲームや歌で七夕の雰囲気味わう
	8月	夏祭り(8/10)	花火の動画を室内に映し出し屋台を再現して
			夏祭りの雰囲気を感じてもらう
	9月	敬老会(9/19)	行事食の提供と似顔絵をプレゼントする
	10月	コスモス見物とドライブ(10/12、10/13)	越知の宮の前公園に出かける
		スポーツ大会(10/19)	紅白に分かれ体操やゲームを楽しむ
ハロウィン喫茶(10/31)		仮装しておやつに喫茶メニューを楽しむ	
11月	みかん狩り(11/8、11/17)	弁当持参して香北町山北にみかん狩りに行く	
令和5年	2月	節分(2/3)	豆まき
	3月	ひな祭り(3/3)	ケーキバイキング

【小規模利用者構成表】

	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月			合計/平均															
	実数	通い 回数	泊り 回数	訪問 回数	実数	通い 回数	泊り 回数	訪問 回数	実数	通い 回数	泊り 回数	訪問 回数	実数	通い 回数	泊り 回数	訪問 回数	実数	通い 回数	泊り 回数	訪問 回数	実数	通い 回数	泊り 回数	訪問 回数	実数	通い 回数	泊り 回数	訪問 回数	実数	通い 回数	泊り 回数	訪問 回数	実数	通い 回数	泊り 回数	訪問 回数																
																																					実数	通い 回数	泊り 回数	訪問 回数	実数	通い 回数	泊り 回数	訪問 回数	実数	通い 回数	泊り 回数	訪問 回数	実数	通い 回数	泊り 回数	訪問 回数
介護1	2	25	3	25	2	24	2	28	3	32	4	46	2	36	4	44	3	29	1	48	4	42	7	42	5	70	28	48	4	50	4	43	6	59	22	46	5	56	25	41	4	36	9	38	2	25	0	39	42	484	109	488
介護2	8	115	19	167	9	150	24	179	8	142	26	154	6	89	12	183	6	90	10	168	5	76	5	176	6	90	33	75	6	121	47	86	8	123	41	127	81	1,312	282	1,782												
介護3	7	132	33	35	5	88	10	33	6	111	8	34	6	113	8	37	7	125	15	42	7	132	19	33	7	123	13	34	9	182	16	99	9	170	32	94	7	150	34	98	6	111	18	78	7	131	25	123	83	1,538	231	740
介護4	4	95	35	222	4	84	27	211	4	82	28	166	4	79	15	203	4	87	22	181	4	88	23	188	4	89	36	111	3	67	33	63	4	42	9	63	4	71	8	113	6	117	58	71	49	968	323	1,790				
介護5	2	38	28	8	2	17	13	0	1	13	0	9	1	3	0	3	1	2	0	8	1	13	0	8	1	13	0	8	1	12	0	10	1	21	15	58	1	20	16	43	1	18	14	38	1	19	15	55	14	187	101	258
合計	23	405	118	457	22	363	76	451	22	380	66	409	21	379	66	456	21	324	43	484	22	370	69	454	24	377	88	425	24	399	129	392	23	358	117	320	21	357	96	353	24	415	140	415	269	4,489	1,046	5,058				
平均要介護度	2.8			2.8			2.6			2.7			2.7			2.6			2.6			2.5			2.7			2.5			2.6			2.6			2.8			2.7												
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
利用者計	23	405	118	457	22	363	76	451	22	380	66	409	21	379	66	456	21	324	43	484	22	370	69	454	24	377	88	425	24	399	129	392	23	358	117	320	21	357	96	353	24	415	140	415	269	4,489	1,046	5,058				

小規模多機能居宅介護 活動別利用者 延人数推移



7. デイサービスセンター サイタ（通所介護 / 第1号通所事業）

重点目標

(1) 目標稼働率 80% ⇒ 実績 77%

入院、施設入所による利用中止や新型コロナウイルス感染予防のための利用控えが相次いだことと、デイサービスを利用しながらショートステイを併用する方が増加したことなどにより、稼働率が伸び悩み、目標を達成することができなかった。当初予算からも大きく収入を落としてしまい、より高い営業力と各居宅との連携強化の必要性を強く感じた。

(2) 人材育成に関する取り組みについて

退職等によって職員の入れ替わりが多くあり、新人職員を指導、育成する体制を十分に整えることができなかった。職員の知識、経験不足も目立ち、通所介護という事業所での仕事の難しさに苦慮する場面も多く見られた。今後は、そういった職員一人ひとりの思いを聞き、フォローしていく体制を整えていきたい。

(3) 稼働率向上に関する取り組みについて

継続して利用していただいている利用者やケアマネとの連携をより強固にするために、電話や対面にて積極的にコミュニケーションを図っていたが、入院、施設入所、体調不良者が相次ぎ、稼働率が伸び悩んだ。また、新型コロナウイルスの影響によって、新規利用者の確保につながる見学や体験利用の件数も減少傾向となった。前年度から体験利用された方に対して、写真付きの手紙等を渡しているが、とても好評なので継続していくこととする。今後は、新型コロナウイルス感染症の位置付けが5類に変わるので、積極的な営業活動を行い、稼働率の向上を目指していく。

(4) 認知症に関する取り組みについて

新型コロナウイルスの影響によって外部研修への参加が困難な状況が続いたため、オンラインで認知症を勉強する機会を設けた。新人職員に関しては、認知症の方への対応に苦慮する場面が多く見られたため、相談員等がOJTにて対応方法を示した。利用者のBPSDに対しては、原因を探る力と、対応を考える柔軟性が求められるので、今後も認知症を勉強する機会を設けていくとともに、今ある環境、資源で何ができるのか皆で考えて支援を続けていく必要性を感じている。

(5) 機能訓練に関する取り組みについて

生活リハビリを念頭に、通所介護計画書、個別機能訓練計画書に基づいて、機能訓練指導員、介護職員が協力して機能訓練を行った。また、居宅での生活状況を踏まえ、機能維持ができるように訓練を行い、日々の状態変化も確認しつつ内容を見直している。しかし、コロナ禍で活動的な運動や全員でできる体操に制限を設ける必要があった。今後はより楽しく身体を動かせるように午前の全体のレクリエーションと午後の個別レクリエーションの内容を考えていく必要がある。

(6) 災害時に関する取り組みについて

令和4年度は、管理者がBCP策定委員として、また防火管理者として、様々な研修に参加し、災害時対応を検討した。特に南海トラフ地震については、BCP策定義務化を受け、マニュアル作りから検討会、机上型訓練研修まで受け持つことで、事業所内で出来ることをより考えることができた。また、備蓄品の管理や、必要な物資等についても再度洗い出すことができた。職員の連絡先、連絡方法についても、新たに法人用として公式ラインの導入を行い、全職員に対してより迅速な連絡手段を確立することができた。

消防訓練では、焦らず対応ができるようにと通報訓練を行った。また、エアストレッチャーや消防設備の使用方法等を学んだ。

今後の課題としては、通所の特性を理解すること、送迎中の対応方法、被災後のご利用者への対応方法などが挙げられる。より実践的な訓練を行い、有事に備えていきたい。

サービス内容

(1) 食事

温かい食事は温かく、冷たいものは冷たく提供できるよう配膳を行い、季節の食材や、イベント毎に趣向を凝らした食事を提供することができた。水分補給においては、利用者各自が自分の意思で飲みたい時にお茶を入れることができるようにと、各テーブルにポットを置いた。また、水分ゼリーを提供したり、おやつ時には飲みたいものを提供できるように注文を取ったりして、水分量を増やすことができた。

(2) 入浴

利用者一人ひとりの介助内容を把握し、時間がかかっても自分でできることはしてもらうことを目標に自立を目指した入浴介助を行うことができた。新たな取り組みとして、季節の湯として各季節の飾りつけや入浴剤を使用し、自宅では味わえない開放的な入浴ができるよう取り組み、利用者に変えていただいた。入浴の際には全身状態を確認し、身体の変化や外傷等の早期発見に努めた。

(3) 排泄

自立支援の観点から、自宅での生活を想定した誘導を基本として個別に対応した。また、連絡帳を活用して家族と連携し、排せつ状況を確認したうえで便秘の方には排便チェックを行い、薬の調整や必要に応じて敵便等による排便コントロールを行った。また、家族とパットの種類の調整等を行うことで、より失敗を減らして快適に排泄していただくことに取り組んだ。

(4) 機能訓練

利用者が楽しみながら身体機能等の維持向上ができる個別及び全体プログラムを考え、取り組んだ。余暇時間には個別のレクリエーションメニューを組み、認知機能に働きかける脳トレや、手先をより使うようにハサミや折り紙を使ったレク等を実施することにより、心身共に活動的に過ごしていただけるようにした。令和4年度は脳トレのメニューに着目し、より楽しんで脳トレができるメニューを多く取り入れた。

(5) 健康状態の確認

利用時には、看護職員が中心となって体温・血圧・脈を測定し、その日の健康状態を確認した。また、必要に応じて家族や主治医と連携し、指示に基づいた対応に努めた。感染症に関しては前年度に引き続き新型コロナウイルス対策を行い、在宅での検温を含めた体調確認を継続して行った。職員については、体調チェックや抗原検査を行い、心配な場合は業務内容を調整するなどして職員から利用者への感染を予防した結果、職員から利用者への感染はなかった。

薬の管理については、声出し確認、看護、管理者のダブルチェック等の基本を守って対応し、誤薬事故はなかった。

(6) 送迎サービス

曜日ごとに運行ルートを変更するなど、できるだけ利用者、家族の要望に沿った運行計画を作成し送迎を行った。予定時刻に送れそうな場合は、あらかじめ電話連絡を入れるなどして対応していたが、連絡が遅れ、家族に指摘されるケースもあった。一人暮らしの利用者宅においては、火元、荷物、鍵、服薬の有無等を確認し、利用者が安心して利用できるようにした。利用者がフライパンを焦がしていたことが1件、自宅で倒れていたことが1件あったが、冷静に対応することができた。

令和4年度加算取得一覧表

デイサービスセンター サイト

加算項目	単位	実人数	延人数	取得率 ※1	稼働率100% の場合	実収入額	差額
サービス提供 体制加算 I	22	573	5,588	73%	1,688,500	1,229,360	△ 459,140
入浴加算	40	473	4,315	} ※2		1,726,000	
科学的介護 加算	40	573	573			229,200	
送迎減算	△ 47	133	568			△ 266,960	
					1,688,500	2,917,600	△ 459,140

※1 各月の取得率は定員数に日数をかけた数で延べ人数を割った数字となっている。

(日曜日、年末年始は閉所のため、開所日の307日で計算している。25名定員)

※2 当加算については、該当利用者へ算定するものであり、取得率等表示しない。

【年齢構成】（介護予防含）

（令和5年3月31日）

	64歳以下	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90～94歳	95歳以上	計	平均年齢	最低年齢	最高年齢
男	0	0	1	2	3	4	2	0	12	84.1歳	72歳	93歳
女	0	0	0	5	11	17	14	6	53	88.2歳	75歳	102歳
計	0	0	1	7	14	21	16	6	65	87.5歳		

【行事实績】

実施年月	行事名	内容	
令和4年	4月	テーブルゲーム	サイコロゲーム
		体力測定	月1回実施
		制作レク	壁画制作(しだれ桜と金魚)
	5月	制作レク	壁画制作(こいのぼり)
		園芸レク	トマト、ナス、キュウリ、オクラ
		体力測定	月1回実施
	6月	テーブルゲーム	都道府県クイズ、ことわざクイズ
		体力測定	月1回実施
		制作レク	制作(あじさい寺)
	7月	体力測定	月1回実施
		制作レク	壁画制作(天の川)
		テーブルゲーム	○×クイズ、文字集めゲーム
		夏祭り	輪投げ、ヨーヨー釣り
	8月	体力測定	月1回実施
		制作レク	壁画制作(海、ヤシの実)
		ミュージックケア	
		テーブルゲーム	旗揚げゲーム、物覚えゲーム
	9月	体力測定	月1回実施
		敬老会	職員余興等
		制作レク	壁画制作(秋の夕暮れ)
		テーブルゲーム	連想ゲーム
	10月	テーブルゲーム	ジェスチャーゲーム
		体力測定	月1回実施
		壁画制作	壁画制作(紅葉と月)
秋の歌集レク		歌	

令和4年	11月	テーブルゲーム	言葉当てクイズ、ことわざクイズ
		体力測定	月1回実施
		壁画制作	壁画制作(菊人形)
		持ち帰りレク	クリスマス用リース、ツリー
	12月	冬の歌集レク	歌
		制作レク	クリスマスカード作り
		体力測定	月1回実施
		クリスマス会	サンタの衣装でプレゼント配り
		壁画制作	壁画制作(クリスマスツリー)
	令和5年	1月	お正月クイズ
初釜			葛湯と和菓子
体力測定			月1回実施
壁画制作			壁画制作(干支)
2月		節分	節分カゴ競争
		ミュージックケア	
		体力測定	月1回実施
		壁画制作	壁画制作(雪解けの木、福寿草)
3月		春の歌集レク	歌
		体力測定	月1回実施
		テーブルゲーム	カゴ競争
		制作レク	壁画制作(桜のつぼみ)

【デイサービスセンターサイト利用者構成表】

	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		合計／平均	
	実数	延数	実数	延数	実数	延数	実数	延数	実数	延数	実数	延数	実数	延数	実数	延数	実数	延数	実数	延数	実数	延数	実数	延数	実数	延数
介護支援1																									0	0
介護支援2	5	29	4	29	4	30	4	29	4	29	4	23	3	20	3	20	3	19	3	20	5	30	5	38	47	316
介護予防	5	29	4	29	4	30	4	29	4	29	4	23	3	20	3	20	3	19	3	20	5	30	5	38	47	316
平均要支援度	2.0		2.0		2.0		2.0		2.0		2.0		2.0		2.0		2.0		2.0		2.0		2.0		2.0	

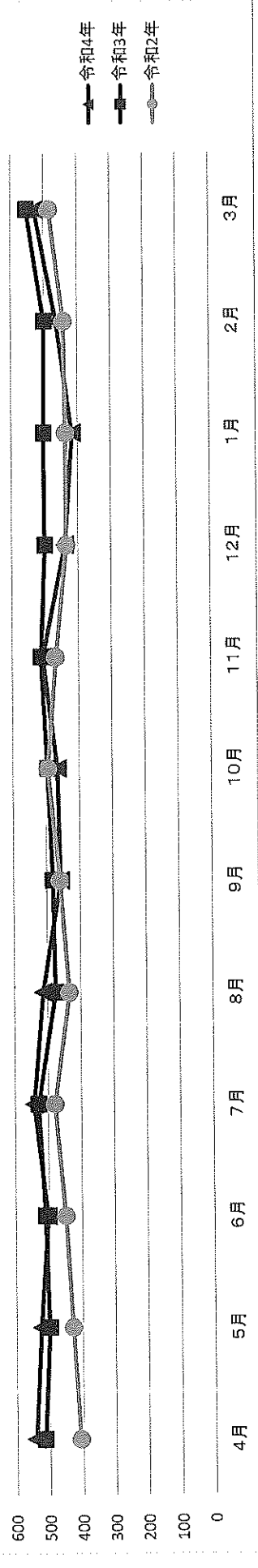
介護保険	要介護1	18	164	19	162	21	157	22	165	23	184	25	163	23	174	22	177	20	169	20	165	21	171	21	196	255	2,047
	要介護2	11	147	13	146	12	137	12	144	11	138	9	112	9	106	11	142	11	120	11	113	14	139	14	165	138	1,609
	要介護3	11	128	10	125	10	128	12	142	10	120	11	124	10	116	9	112	9	71	9	71	11	93	11	100	123	1,330
	要介護4	5	54	5	47	5	33	5	49	4	31	3	23	4	37	4	49	4	48	4	36	2	20	1	17	46	444
	要介護5	1	21	1	16	1	18	1	14	1	12	1	14	1	13	1	8	1	13	1	12	1	11	1	12	12	164
	合計	46	514	48	496	49	473	52	514	49	485	49	436	47	446	47	488	45	421	45	397	49	434	48	490	574	5,594
	平均要介護度	2.3		2.2		2.2		2.2		2.1		2.1		2.1		2.1		2.1		2.0		2.0		1.9		2.1	

その他(総合事業合)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
------------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

利用者計	51	543	52	525	53	503	56	543	53	514	53	459	50	466	50	508	48	440	48	417	54	464	53	528	621	5,910
------	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	-----	-------

事業日数	26	26	26	26	27	26	26	26	25	27	25	26	26	26	26	26	24	24	24	24	24	24	24	27	307
1日平均利用者数	20.9	20.2	19.3	20.9	19.0	18.4	17.9	18.3	19.5	17.4	19.3	19.6	78.2%	73.3%	69.5%	77.3%	78.2%	77.0%							
稼働率	83.5%	80.8%	77.4%	83.5%	76.1%	73.4%	71.7%	73.3%	78.2%	69.5%	77.3%	78.2%	77.0%												

デイサービス サイト利用者 延人数推移



8. ショートステイセンター サイタ

(基準該当短期入所生活介護 / 基準該当介護予防短期入所生活介護)

重点目標

(1) 目標稼働率 90% ⇒ 実績 104.1%

利用依頼が多くあり、目標稼働率を大きく上回ることができた。収入についても、平均介護度の上昇もあって当初予算額から大幅に増収となった。

(2) 稼働率向上に関する取り組みについて

デイサービスとショートステイが併設しているところにメリットを感じていただき、ケアマネからの依頼が多くあった。また、「ショートステイの床数が6床しかないので手厚いケアが受けられる」「日中デイで過ごせるので安心」「初めてサービスを使う方はサイタがいい」といった声も多く聞かれた。令和4年度はコロナクラスターで閉鎖する事業所が多くあったため、緊急的に使いたいといった依頼も多かった。新規利用の方のほとんどが定期利用につながったのも稼働率が向上した要因の一つである。日程の調整が難しい場合は、スイート・ハート・ホームのショートステイと連携を図った。

(3) 認知症に関する取り組みについて

新型コロナウイルスの影響によって外部研修への参加が困難な状況が続いたため、オンラインで認知症を勉強する機会を設けた。新人職員に関しては、認知症の方への対応に苦慮する場面が多く見られたため、相談員等がOJTにて対応方法を示した。利用者のBPSDに対しては、原因を探る力と、対応を考える柔軟性が求められる。特に夜勤帯は1人での対応になるので、帰宅願望や不穏になる前兆、表情等を見極める力を養っていく必要がある。

(4) 災害時に関する取り組みについて

令和4年度は、管理者がBCP策定委員として、また防火管理者として、様々な研修に参加し、災害時対応を検討した。特に南海トラフ地震については、BCP策定義務化を受け、マニュアル作りから検討会、机上型訓練研修まで受け持つことで、事業所内で出来ることをより考えることができた。また、備蓄品の管理や、必要な物資等についても再度洗い出すことができた。職員の連絡先、連絡方法についても、新たに法人用として公式ラインの導入を行い、全職員に対してより迅速な連絡手段を確立することができた。

消防訓練では、焦らず対応ができるようにと通報訓練を行った。また、エアストレッチャーや消防設備の使用方法を学ぶなど、夜間一人でも焦らず対応できるように訓練ができた。今後の課題については、夜間帯に災害が発生した場合の対応方法、被災後の応援体制などが挙げられる。より実践的な訓練を行い、有事に備えていきたい。

サービス内容

(1) 食事

温かい食事は温かく、冷たいものは冷たく提供できるよう配膳を行い、季節の食材や、イベント毎に趣向を凝らした食事を提供することができた。水分補給においては、利用者各自が自分の意思で飲みたい時にお茶を入れることができるようにと、各テーブルにポットを置いた。また、水分ゼリーを提供したり、おやつ時には飲みたいものを提供できるように注文を取ったりして、水分量を増やすことができた。夜間帯についてもベットサイドにお茶を置くことで、水分摂取の機会を増やすことができています。

(2) 入浴

利用者一人ひとりの介助内容を把握し、時間がかかっても自分でできることはしてもらうことを目標に自立を目指した入浴介助を行うことができた。新たな取り組みとして、季節の湯として各季節の飾りつけや入浴剤を使用し、自宅では味わえない開放的な入浴ができるよう取り組み、利用者に変えて喜んでいただいた。入浴の際には全身状態を確認し、身体の変化や外傷等の早期発見に努めた。

(3) 排泄

自立支援の観点から、自宅での生活を想定した誘導を基本として個別に対応した。また、連絡帳を活用して家族と連携し、排せつ状況を確認したうえで便秘の方には排便チェックを行い、薬の調整や必要に応じて敵便等による排便コントロールを行った。夜間帯の排泄についても、ポータブルトイレを活用したり、コールによってトイレ誘導を行うなど、利用者個々に合わせて支援した。

(4) 機能訓練

利用者が楽しみながら身体機能等の維持向上ができる個別及び全体プログラムを考え、取り組んだ。余暇時間には個別のレクリエーションメニューを組み、認知機能に働きかける脳トレや、手先をより使うようにハサミや折り紙を使ったレク等を実施することにより、心身共に活動的に過ごしていただけるようにした。令和4年度は脳トレのメニューに着目し、より楽しんで脳トレができるメニューを多く取り入れた。また、ショートステイの利用者がずっと居室で過ごすことがないように、無理のない範囲でレクリエーションへの参加を促した。

(5) 健康状態の確認

利用時には、看護職員が中心となって体温・血圧・脈を測定し、その日の健康状態を確認した。また、必要に応じて家族や主治医と連携し、指示に基づいた対応に努めた。感染症に関しては前年度に引き続き新型コロナウイルス対策を行い、在宅での検温を含めた体調確認を継続して行った。職員については、体調チェックや抗原検査を行い、心配な場合は業務内容を調整するなどして職員から利用者への感染を予防した結果、職員から利用者への感染はなかった。

薬の管理については、声出し確認、看護、管理者のダブルチェック等の基本を守って対応し、誤薬事故はなかった。与薬についても、夜間帯(朝食・夕食)の薬の服用時間の調整をするなどして、介護職員が2人で確認できる環境を作り対応している。

(6) 送迎サービス

曜日ごとに運行ルートを変更するなど、できるだけ利用者、家族の要望に沿った運行計画を作成し送迎を行った。予定時刻に送れそうな場合は、あらかじめ電話連絡を入れるなどして対応した。電話を必ずすることと、送迎表をきちんと確認することを職員間で徹底している。夕食後の送りに対しても職員が連携して対応している。

令和4年度加算取得一覧表

ショートステイセンター サイト

加算項目	単位	実人数	延人数	取得率 ※1	稼働率100% の場合	実収入額	差額
サービス提供 体制加算Ⅱ	18	357	2,303	105%	394,200	414,540	20,340
送迎加算	184	327	1,066	※2		1,961,440	
緊急受入 加算	90	2	5	※2		4,500	
					394,200	2,380,480	20,340

※1 各月の取得率は定員数に日数をかけた数で延べ人数を割った数字となっている。

※2 当加算については、該当利用者へ算定するものであり、取得率等表示しない。

【ショーステイセンターサイト利用者構成表】

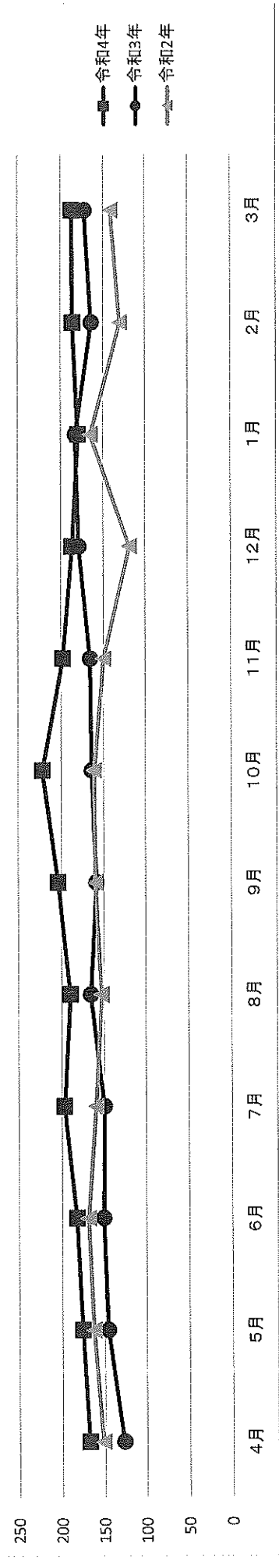
	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		合計／平均	
	実数	延数	実数	延数	実数	延数	実数	延数	実数	延数	実数	延数	実数	延数	実数	延数	実数	延数	実数	延数	実数	延数	実数	延数	実数	延数
介 護 予 防	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
平均要支援度	0.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0			

介 護 保 険	10	65	10	59	12	66	11	72	12	71	15	90	16	91	10	81	15	62	11	56	11	53	11	62	144	828		
要介護1	4	29	7	39	7	41	5	36	7	48	6	38	7	39	5	27	4	23	3	20	6	33	6	36	67	409		
要介護2	8	59	6	60	7	59	8	73	8	55	8	64	11	64	9	65	10	70	7	69	10	76	9	69	101	783		
要介護3	2	12	1	11	1	13	1	10	2	12	2	8	3	24	5	25	4	28	4	31	2	20	2	20	29	214		
要介護4	1	3	1	4	1	4	1	4	0	0	1	4	1	4	0	0	1	4	1	4	1	4	1	4	0	9	35	
要介護5	25	168	25	173	28	183	26	195	29	186	32	204	38	222	29	198	34	187	26	180	30	186	28	187	350	2,269		
合計	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	2.0	2.0	2.0	2.0	2.1	2.1	2.2	2.2	2.4	2.4	2.5	2.5	2.4	2.4	2.3	2.3	2.2	2.2		
平均要介護度																												

利用者計	25	168	25	173	28	183	26	195	29	186	32	204	38	222	29	198	34	187	26	180	30	186	28	187	350	2,269
------	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	-----	-------

事業日数	30	31	30	30	31	31	31	31	31	31	30	30	31	31	30	30	31	31	31	31	28	28	31	31	365
1日平均利用者数	5.6	5.6	5.6	6.1	6.3	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.8	6.8	7.2	7.2	6.6	6.6	6.0	6.0	5.8	5.8	6.6	6.6	6.0	6.0	6.2
満床率	93.3%	93.0%	93.0%	101.7%	104.8%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	113.3%	113.3%	119.4%	119.4%	110.0%	110.0%	100.5%	100.5%	96.8%	96.8%	110.7%	110.7%	100.5%	100.5%	103.6%

ショーステイ サイト 利用者 延人数推移



9. 困りごと相談室

重点目標

(1) 困りごと相談室の活性化について

地域貢献事業として平成29年7月より困りごと相談室を開設していたが、高知市が運営するほおっちょけん相談窓口と趣旨や取り組み内容が一致することから、令和4年11月より法人内にほおっちょけん相談窓口を設置（困りごと相談室は廃止）し、困りごと相談室の業務をほおっちょけん相談窓口に移管した。受付担当者についても、困りごと相談員3名が引き続き対応していくこととした。

令和4年度からは、2ヶ月に1回の頻度で困りごと相談員会を開催し、相談の有無や、相談内容、取り組み状況等について確認するとともに、必要な協議を行った。

令和4年度の相談は2件あった。その内訳は、入所者の家族の知人からの相談が1件、職員からの相談が1件である。